

2021年
11月号

ボランティア情報



発行 軽井沢町ボランティアセンター
〒389-0111 軽井沢町大字長倉 4844-1 木もれ陽の里
電話 0267-45-8113 FAX 0267-46-2116
Email : winwing-vc@karuizawashakyo.com
H P : www.ktvvc.jp

ボランティアセンターの活動報告と予定

令和3年度ボランティア講座

「SDGs入門講座」～もっと知りたいSDGs～

最近マスコミ等で見聞きする「SDGs」、「SDGs」を多くの皆さんに理解いただくよう令和3年度ボランティア講座「SDGs入門講座」が3回シリーズで開催されました。

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された国際社会共通の目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

SDGsは、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的（ユニバーサル）なものであり、日本政府としても積極的に取り組んでいます。

講習会では、講師から講義と、グループワークを主体に自分たちの生活の中にある課題は何か、そして今から取り組める活動は何か等、カードゲームを主に研修会が進みました。

参加者からは、テレビや新聞等で見聞きするようになったSDGsをきちんと理解できるようになりました。グループワークやゲームを主体としていたことで、今の生活に置き換えて考えるきっかけになりましたと、話されていました。

ボランティアセンターでは、地域生活の中で役立つ講座を企画して行きたいと考えていますので、「こんな講座に出席してみたい」「こんな講座を企画して」等、皆様のご意見をお待ちしています。



令和3年度ボランティア状況調査から

先頃お願いした令和3年度ボランティア状況調査ですが、皆様のご協力により42団体、全ての団体から回答をいただきました。ありがとうございました。

つきましては、調査の集計ができましたのでご報告いたします。

◎活動内容

大きく分けて

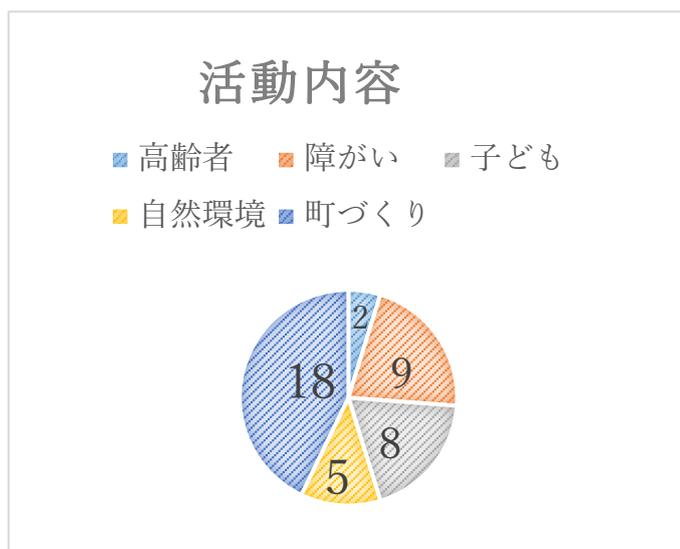
高齢者支援、障がい者支援、子ども支援、自然環境、町づくり の分類としました。

活動内容	回答数	割合
高齢者支援	2	5%
障がい者支援	9	21%
子ども支援	8	19%
自然環境	5	12%
町づくり	18	43%
	42	100%

町づくりが43%と一番多く、ボランティアに携わる皆さんが、地域社会に関心があることが伺え、次に障がい者支援、子ども支援、自然環境、高齢者支援の順でした。

今回の調査対象は、社協に登録されている

42団体です。今後、町内で活動している多くのNPOや、ボランティア団体、地域活動団体の情報等もキャッチし、情報の共有と連携を図りたいと思います。



◎困りごと

困りごとを抱えている団体が、42団体中36団体(86%)から回答をいただきました。困っている内容、(複数回答)で一番多いのが、活動ができないが20団体56%と一番多く、コロナ禍の影響が大きいことが伺え、コロナ禍に関連する回答(会場が使えなくなった、活動が制限される、仲間との関係が希薄化した、他団体との連携が持てない、やりたいことが伝えにくくなった)等の回答が多く、コロナ禍で大きく生活スタイルが変化したことで、ボランティア活動にも大きな影響を及ぼしていることが分りました。

また、次に多かったのが、会員の高齢化10団体(28%)、会員不足8団体(22%)の順です。このことは、コロナ関連とは別に、既に会がコロナ禍の始まる前から抱えた問題であり、「会のモチベーションを保ことが難しい」2団体(6%)からも推察されるように、会の活動の在り方をボランティアセンターとしても、一緒に考える役割を担って行きたいです。

◎コロナ禍で変わったこと

「コロナ禍で、会の活動の在り方に変化がありましたか」の問いに、42団体中37団体(88%)からあると回答をいただいた。

活動が変わった内容(複数回答)で一番多いのが、活動の休止が22団体(59%)と一番多く、次に活動の変更・見直し13団体(35%)、会場の変更8団体(22%)顔を見てのコミュニケーションが取れなくなった6団体(16%)、会員との連絡方法5団体(14%)、会の見直し、今後の準備や活動のあり方3団体(8%)であり、コロナ禍の影響が大きいことが伺えます。また、会員との連絡方法や会議をZOOMに切り替えている団体もあるようですが、IT機器の操作対応に苦慮していること、PCの画面では伝えることが難しいコミュニケーションがあるとの回答がありました。回答が、困りごとと重複しており、コロナ禍で新しい生活スタイルが問われている中、ボランティア活動もITの活用や活動の見直し等が求められていることが伺えます。

◎その他、今後取り組みたいこと等

コロナ禍の中、生活スタイルが大きく変わり、会の活動のあり方も大きく変わる時を迎えました。イベント等集まりを主体としたグループは、活動の中止や規模の縮小を迫られ、会の活動の見直しを迫られ、コロナ禍が長期化することを見据え、これからの新しい生活スタイルにマッチした、ボランティア活動のあり方に向け、ボランティアグループとボランティアセンターが情報を共有し進めて行くことが重要であるとかんじました。

なお、「皆さまと元気にお会いできる日を楽しみにしています。頑張っていきましょう」「システムを使い、外出付き添いボラマッチングサービスも考えて行きたい」「2年続けて地域活動みほん市が開催されなかったので、他のボランティアグループの方と会う機会がなく淋しいですね。開催できなくなって気付いたことです」と、言った意見もあり、新型コロナウイルスと共存をしながら、今できる活動に向け“できること探し”を、一緒に考えて行きたい。併せて、新しい生活スタイルの中から、スマホや、LINE、ZOOM等の使用は、これからの生活の中で必然とは感じながらも、利用するまでに躊躇としている様子が伺えます。今後、新しい生活様式に合わせたIT機器等を活用したコミュニケーションのあり方や、オンライン(SNS)やZOOM等を身近に感じられるような「〇〇とつながる入門講座」や、YouTube活用に向け「〇〇活動発信講座」等を検討して行きたいです。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、これまで取り組んできた活動が、あらゆる場面で制限される中、皆様から寄せられた御意見等を参考にし、今後のボランティアセンターの運営に役立てて行きたいと存じます。

今回の調査に関しての、ご意見やご要望等は、ボランティアセンターまでお問い合わせください。皆様から忌憚のないご意見をお待ちしています。

また、ボランティアセンターに登録されず、様々な活動をされている皆様、是非ボランティアセンターに登録ください。ボランティア保険の加入等を始め皆様の活動を応援します。

ボランティア情報

ボランティアグループ紹介

「軽井沢ネイチャークラブ」

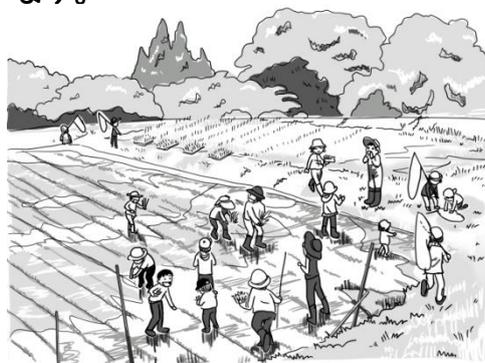
軽井沢ネイチャークラブは、かつての里山が変わり行く姿を目にし、「このままでよいか、自然と会話をしながら共生できないか」との思いから 2012 年にメンバーを募集して五井野さんが立ち上げたクラブです。

現在は、田・畑・森・昆虫・花・古民家等、6つの班に分かれ、里山の整備活動を主に行っています。毎年 7 月には班の全体行事として「塩沢村蛍めぐり祭」を開催して、多くの方々に塩沢地区のホタル生息地をガイドと共に案内しています。

五井野さんは、自然の中でふれあい様々な体験を通じ、「未来の子供たちの価値観を育むきっかけになれば嬉しいな」と語ってくれました。

会員は、随時募集しています。
大人も、子どもも自然大好きな方はどうぞ遊びに来てください。

連絡先 ネイチャークラブ 代表 五井野太志 さん
Eメール karuizawa.nature.club@gmail.com



～毎月第3木曜日に関催！「月例情報市庭」～

場 所：軽井沢発地市庭 イベントスペース

時 間：午後 2 時～午後 3 時 * (途中参加、退場可)

3 時を過ぎたら交流タイム * 参加自由

興味のあること、気になっていること、時間があったら自由に直接お話してください。

日 程：毎月第 3 木曜日 定期開催

開催日 第 4 9 回 11 月 1 8 日 (木)

第 5 0 回 1 2 月 1 6 日 (木)

第 5 1 回 1 月 2 0 日 (木)

ボランティア活動や、地域活動の情報交換の場です。

申込は不要、アピールしたいチラシや名刺があればご持参ください。

主 催：軽井沢町ボランティアセンター運営委員会

(高尾幸男、須永 久、荻原久美子、清水智子、事務局山崎茂文)

問合先：軽井沢町ボランティアセンター (木もれ陽の里内)

電 話 0267-45-8113 FAX 0267-46-2116

E m a i l : winwing-vc@karuizawashakyo.com

H P : www.ktvc.jp

